

新刊紹介

Ohgushi, T., Craig, T. P. & Price, P. W. (eds.) (2007) *Ecological Communities: Plant Mediation in Indirect Interaction Webs*. Cambridge University Press, B5 判, 444 頁, ISBN-13 978-0-521-85039-1 Hardback.

群集生態学に関する待望の本格的な書物が出版された。これまでの群集生態学の本では、もちろん、群集を構成する生物間相互作用を取り上げてはいるが、直接的な相互作用に関する記述が中心であった。しかし、本書は、さまざまな植物（おもに寄主植物）が介在することによって生じる、陸上生物間の間接的な相互作用に焦点を合わせ、多栄養段階間と同一ギルドに属する多種間によって繰り広げられる生物間相互作用の具体例を満載した世界最初の書物である。例えば、植食者と送粉者；ほ乳動物と植食性昆虫；地中の分解者と地上の植食者、寄生者、送粉者；同一栄養段階に属する植食者同士；植物に作られるゴールとミバエ、寄生蜂、同居者、小鳥などの中で見られる、植物を介した間接的な相互作用が詳述されている。また、アリとアブラムシの相利関係が群集構造と多様性に及ぼす影響や、植食者が引き起こす植物の改変が多栄養段階間の相互作用に及ぼす進化生態学的な側面なども取り上げられている。

本書は、次の四つの質問に答える形で編集されている：植物が介在する間接的な影響が (1) どのような未知の相互作用の連鎖を生み出しているのか？ (2) 多層栄養段階の系において、どのような複雑な相互作用を生み出しているのか？ (3) 生物群集や生物多様性にどのように影響するのか？ (4) 進化の過程でどのような影響を及ぼしたのか？ そして、36人の執筆者は、植物が介在する間接的な相互作用の具体例を示し、相互作用が生物群集の構造や多様性に与える影響、相互作用が進化生態学的な側面にもたらした影響などについて言及している。

生物多様性という言葉が注目されてから久しく、本会会員には、生物多様性に関するさまざまな主題に取り組む研究者も数多い。また、直接的、間接的にも、害虫防除や環境問題など、生物間相互作用の応用面の研究に携わる研究者も少なくない。群集生態学の中心課題である生物間相互作用はこれらの学問に深く関係している。とくに、本書で示された、植物の介在による間接的な生物間相互作用は、今後、さまざまな研究を掘り下げ、発展させていくうえで、無視することのできない重要な要素となるであろう。本会会員に、ぜひ、一読をお勧めしたい。

これまでの群集生態学ではあまり取り上げられなかった、間接的な相互作用に着目し、多くの事例を挙げて、新しい切り口を展開された3人の編著者に敬意を表すとともに、本書の刊行によって、この分野の研究がますます発展することを期待する。

(湯川淳一)